

## 恵 温

本校の文化祭は「恵温祭」と呼び、生徒会誌は「恵温」と命名されております。この言葉は、まさに本校の伝統ともなり、また校訓ともなって生徒および卒業生の胸中に深く刻み込まれているのであります。

この「恵温」という言葉は、中国最古の詩集『詩経、邶風』（邶地方の民謡）の「燕々（つばくろ）の歌の中にある文句で、開校にあたり、菊池政次初代校長先生が、本校生徒のために特にお願ひして、東京教育大学（現筑波大学）名誉教授の故諸橋轍次先生からいただいたものであります。諸橋先生は、新潟県南蒲原郡下田村のご出身で、文化勲章を受賞された漢学者でもあり、『漢和大辞典』の編著者としても著名であります。その先生がいつもご愛読された『詩経』の中にある次の漢詩によるものです。

仲 氏 任 只	仲氏は任ありし只
其 心 塞 澗	其の心は塞ちたりて澗く
終 温 且 恵	終くまでも温かにして且つ恵に
淑 慎 其 身	其の身を淑しく慎しみ
先 君 之 思	先君をぞ思ひつつ
以 勗 寡 人	以って寡しき人なるわれを勗ましぬ

（詩経、邶風）

諸橋轍次先生からは、この詩中の「温且恵」の言葉をいただいたのですが、先生のご了解をいただいて、「恵温」としたものであります。

